

令和6年度 大阪府立桜塚高等学校 第1回 学校運営協議会

令和6年6月7日（金）

校 長

委 員 元森ノ宮医療学園校長（元大阪府立高校校長）、豊中市立第三中学校校長、
大阪府立桜塚高等学校 PTA 会長、豊中市地域教育協議会会長、
尚和会会長、桜援会会長、

事務局 教頭、事務部長、首席2名、教務主任、教務部副主任（情報）、生徒指導主事、
生徒指導部副主任（自治会）、進路指導主事、保健主事、各学年主任、書記

1 校長 挨拶

生徒の多様化にあわせ、チームワークが求められる。学校内教員だけでなく、外部の方々とも協力していきたい。学校運営協議会では、忌憚ないご意見をいただきたい。

2 委員紹介及び事務局員紹介

3 会長の選出

会長 小山 正辰 委員

4 会長 挨拶

学校を取り巻く状況が変わっている。私学無償化の影響も大きい。
桜塚高校は部活動参加率も高く、体育祭も活気づいている。
これからも教育活動を頑張ってもらいたい。

5 実施要項他について

修正なし

名簿を令和六年度版に変更している。

6 報告

(1) 令和6年度学校経営計画について（校長）

スローガン：「チーム桜塚」

生徒の多様化、保護者意識の変化、教育改革など多くの要因により「チーム学校」で対応することが求められる。

進路指導についてはどこへ進学したかではなく、第一志望をどれだけ達成できたかという視点で粘り強く指導をしていく。総合的な探究の時間。知る喜びを得る機会が少なく、将来知識を外部から与えられるだけの人間になるのではなく、自ら探求していく力をつけていきたい。

安全安心については、やはりチームワークで連携することが重要。広報活動について、インスタグラムなど有効な方法で発信していく。近隣の中学校では Tik Tok などが利用されていると聞く。運営委員会では話し合う時間を持ち、ボトムアップ型の有機的に関係していく組織づくりに取り組む。

(2) 令和7年度教科用図書選定について
教科書採択の仕組みについて資料の内容について説明。

(3) その他

・授業力向上の取り組みについて（R6年度計画）

授業力向上等検討委員会では、ICT端末の活用について研修や公開授業をおこなう。

6月と11月に公開授業、出前授業を行う。

研修で扱う「ロイロノート」とは授業で使うことができるアプリケーションのことで、生徒同士の意見共有ができたり、黒板を使わずに授業ができたり、小テストの実施も可能。生徒同士の双方向の情報共有ができる。

豊中市の小中学校ではスカイメニュークラウドを利用している。ロイロノートを利用する先生も多い。提出機能も利用していて、提出忘れもなく、便利。

・R6国際交流の取り組みについて

韓国との交流を令和元年以来再会。オンラインの交流も行っている。留学生の受け入れも行う予定。海外研修も久しぶりに実施。英語圏への海外研修も計画中。国際交流はできるだけ負担のない方法で実施できないか、日本にきている留学生など招待してはどうかなど検討している。

・学校広報（魅力発信）の取り組みについて

広報は私学に生徒が流れている状況から、桜塚の魅力を発信していきたいと考え、活動している。桜塚高校の在校生に魅力を聞くと「楽しそう」という声をきく。部活動や、体育祭などの行事の元気なところをアピールしていく。インスタグラムで桜塚高校を知る生徒が多いようだ。ただ、中学生が興味を引くようなインスタグラムの動画は、大人からよりも、生徒からの発信のほうが求心力があるようだ。

子供もインスタグラムを利用している。インスタグラムを見て、下の子も行きたいという意欲がわいてきている。広報も大切だが、生徒一人一人が自分からアップロードしたいと思えることはとても良いことだと思う。個人情報への扱いは大変難しいが、魅力を発信する個人アカウントの扱いには配慮する必要がある。部活の先輩を追いかけることなど、個人の繋がりは学校の魅力になっていく。（委員より）

・R6地域連携の取り組みについて

生徒間での認知度が低い。地域連携の実績を下足室のモニターに移すなどして、認知度を上げていきたい。

・R6行事予定表について

大きな変更点はない。主な行事を中心に説明。スタサポについては、フィードバックするための進路講演会を実施する。

・R7年度より入学者選抜のオンライン出願制が開始されることについて、中学校では大混乱している。

試験当日のトラブルも心配。私学ではトラブルあった。電車を乗り間違えたり、似た名前の学校へ行ったりしてしまう。中学校としては夏休みや1月に一度公共交通機関を利用

して高校へ行くよう指導している。

(委員より)

・R5進路実績について

今春卒業の76期生は8クラス規模。専門学校進学者が微増。共通テストの出願者数が大きく下がった。おそらく、「共通テスト離れ」というものがあり、共通テストの長文読解の難易度が上がる傾向から共通テストを避ける生徒がいる。私学を第一志望とする生徒が多い本校ではこの「共通テスト離れ」の状態にあると思われる。

出願に関しては、オンライン出願によるミスもある。

・生徒指導について（昨年度総括と本年度取り組み）

遅刻数自体は500程度少なくなっている。起立性調節性障害などの生徒もおり、個別に丁寧に指導している。制服の着こなしについて、制服が3学年そろった。今年度も引き続き遅刻、服装、挨拶の指導を行う。

・部活動について（昨年度主な活動実績および本年度入部状況）

部活は文化系14クラブ、運動系16クラブ。

学年の変わり目に部活を辞める生徒が見られる。アルバイトへのシフトが原因の一つか。1年生をみると9割を維持しているが、コロナ禍の影響で中学校時に部活動ができていない2年生については、高校になって放課後に部活をすることが続かないように思える。

中学校時にコロナ禍において、集団作り、人間関係作りが妨げられた影響があると思われる。集団に入りきれない生徒が多く、人間関係能力において幼さを感じる生徒が目立つ。これまでは生徒たちだけで解決できていたようなクラブ内のトラブルについて、教員が関わらなければならなかったり、保護者から学校に相談があったりする。この影響はもう少し続くだろう。

・各学年より報告（学年および生徒状況について）

3年生：コロナの影響を多く受け、合唱コンクールはできたものの、1年次には我慢しなければならなかったが多かったが、本年度は思い出を作ろうと頑張っている。体育祭は3学年そろって実施した。制服の新調や、新カリキュラムなど大きな節目となる学年である。担任の構成も新しい先生がおおく、さまざまなことにチャレンジができた。

2年生：中学校3年間コロナを経験した。人間関係のトラブルが多く、距離感がうまくとれない生徒が目立つ。2年になり、多少改善している。活動がしんどいということではなく、人間関係につまづいて、部活をやめたがる生徒が目立つ。特に担任は言葉選びにも配慮して丁寧に指導している。勉強面ではとてもまじめに頑張っている。

1年生：昨年1年間はコロナによる様々な制約のない期間を経験しているためか、不登校の状態にある生徒はいない。入試倍率はこの数年の中では低かったが、実力テスト等の結果において、例年に比べてそれほど大きな学力的変化はないと考えている。中学校に比べ、パソコンを使うことが増えたことに負担に感じるという意見があった。デジタルとアナログのバランスを考えていきたい。

第2回学校運営協議会（予定）

日時：10月11日（金）14：00～